

校内研修計画

岩手小学校

1 学校課題

全校児童が、少人数であり保育園から小学校卒業までほとんど変動のない人間関係の中で生活しているため、複数の意見の表出の機会や互いに意見を交流する場面が少ない。昨年度の校内研究の主題として「子どもが自ら学び、表現し、考える力を高める指導法の工夫」を設け、研究をおこなった。その結果、少人数の中でも互いに交流し、意見を交換する児童が出てきた。少人数のメリットとして教師の個別指導が行き届く利点があり、学力の定着のための指導を充実させることができる反面、” 転ばぬ先の杖 “ となってしまうこともある。その結果、必要以上に児童が教師を頼ったり、出番をあきらめたりする傾向がみられた。学力の確実な習得のため、少人数を生かした個別指導を行うとともに、自主的に学ぼうという意欲をもたせ、自主的な学びの方法を身につけさせることを意識した指導場面も必要である。また、学習用具の準備などの学習環境や児童の学習意欲の向上や学習の習慣化について、今以上に家庭との連携が不可欠となっている。

2 研究主題

「子どもが自ら学び、表現し、考える力を高める指導法の工夫」(2年次)

3 主題設定の理由

岩手小学校の教育目標「自ら学び心身共に健康な子どもの育成」を具現化するために、小規模校のよさを生かしつつ、豊かな人間性と心情を育む教育の充実が必要である。国や県などから喫緊の課題として「学力向上への取り組み」が出されている。また、学校経営方針及び、昨年度の課題からも全校での学力向上への取り組みを行う必要性を感じる。「生きる力」のベースとして国語力がある。書かれている文や、問題を捉えることができなければ、課題を解決するまで至らない。国語科における基礎基本や活用力が他の教科にもよい影響を及ぼしていることは、昨年度の研究の成果としても現れている。学力を支えるものとして「国語力」がある。そこで本年度の研究の中心に「国語科」をあて、研究を進める。その際、喫緊の課題として自ら学び、判断し、表現する「力」が求められ、そこに「アクティブ・ラーニング」という概念が出されている。アクティブ・ラーニングは、今後の日本に必要な力でもある。コミュニケーション力、多様な考えとの交流、他の意見を認めるといった課題は、本校のような少人数の学校にも必要なことである。以上の理由から本年度の校内研究は、昨年度の内容をふまえ、さらに発展させた国語科を中心とした2年目の研究とする。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

① 個を育て、個をきたえる指導の工夫

- a 基礎的学力を伸ばす手立ての工夫をする
- b 基礎的学習技能を育てるための手だてを工夫する

② 集団の中で意見を出し、他の意見を認め、自らの考えを深める指導の工夫 (AL)

- a 小集団の中で多様な意見を知る工夫をする
- b 他の意見を認める個 (集団) をつくる工夫をする
- c アクティブ・ラーニングの一環として集団思考と個人思考を仕組む授業 (討論的授業) や討論につながる指導の工夫をする
- d 一方向の発言、発表ではなく双方向性での意見の交流、討論へつながる指導をする

③ 家庭との連携

- a 家庭学習への取り組み
 - <1> 自主学習のスキル (やり方) の指導を行う
例) 低・中・高学年の指導系統や内容の系統性の作成 (岩手プラン)
 - <2> 自主学習のやり方や内容を児童が工夫する指導法
- b 学校便り「岩手っこ」の発行 (家庭教育・子供の発達と学習 等)

(2) 研究の方法

研究の基本は授業である。授業を行い、児童の事実を捉え、研究とする。したがって研究授業を行い、検討する。また、校内における共通財産として研修の場を設ける。

① 全体研究会

研究をすすめるにおいて全体会をもち、共通理解を得る上で研究を進める

② 研究授業

研究授業を年間2本持つ。全体での研究会を行う。ブロックで1本。

③ 校内研修

効果のあった方法や工夫などを互いに提供する場とし、指導法の工夫について学ぶ

④ 実践授業

校内研のテーマにそった授業を年間全員が一人一実践を行う。可能な時間で参観し、研究会を設定する。

5 年間計画

回	月	日	曜	主な内容 (予定)	会の持ち方
1	4	6	水	研究の方向について	全体
2		13	水	校内研究の全体計画について	全体
3		27	水	全体計画・ブロックごとの研究の方向について	全体・ブロック
	5	6	金	東山春季教研 教育研究①	
4		11	水	研修①・学習会 (アクティブ・ラーニングの定義)	全体
		18	水	教育研究②	
5		25	水	研修②・ブロック研究 (研究内容・授業者・授業時期等)	全体・ブロック
	6	1	水	教育研究③	
6		8	水	全体研 (交流)・ブロック研究	全体・ブロック
		15	水	中学校区体育大会	
7		22	水	研修④・ブロック研究	全体・ブロック
8		29	水	研修⑤・ブロック研究	全体・ブロック
9	7	6	水	全体研 (ブロック交流)	全体
10		13	水	ブロック研究	ブロック
	8	1	水	教育研究④	
		5	金	教育講演会 ブロック交流	
11		17	水	ブロック研究	ブロック
12		22	月	教育課程還流報告・全国学力学習状況調査・県学力把握調査 考察	全体
		31	水	統一授業研 教育研究⑤	
13	9	7	水	研修⑥・ブロック研究	全体・ブロック
14		21	水	ブロック研究	ブロック
		28	水	東山秋季教研 教育研究⑥	
15	10	5	水	全体研 (授業案検討①)	全体
16		12	水	研究授業①・研究会 (TC要請) 1年	全体
17		19	水	ブロック研究	ブロック
18		26	水	全体研 (授業案検討②)	全体
19	11	9	水	研究授業②・研究会 (TC要請) 6年	全体
		16	水	ブロック交流	
		30	水	教育研究⑦	
20	12	7	水	ブロック研究 (まとめ)	ブロック
21		14	水	全体研 (紀要について・まとめ)	全体
	1	11	水	教育研究⑧	
		18	水	ブロック交流	
22		25	水	全体研 (まとめ 来年度の方向性)	全体
23	2	1	水	紀要のよみあわせ (校正)	ブロック
		8	水	統一授業研 教育研究⑨	
		15	水	東山冬季教研 教育研究⑩	
24		22	水	紀要原稿仕上げ (締切・40部印刷)	全体 (各自)
25	3	8	水	紀要の拾いこみ	全体